

独自開発 発製品 フロンキーパー・KE2の施工店拡大へ

スーパー需要は健在—自店競合も

新潟県中越地区、長岡に所在を置きつつ、新潟県内全域を網羅。同時に地域一番店の管工事業者として冷凍・冷蔵、空調設備で総合エンジニアリング業を展開するナンバ（社長＝難波昇一氏、本社＝新潟県長岡市三島新保633-1）の今期動向について、難波昇一社長は「スーパー関連の店舗冷設は順調に推移している。近年、新潟地区はナショナルチェーンや地場大手流通、また県外資本の乗り入れなどが盛んに行われ、既にオーバードロワーと見る向きもあるが、コーペラティブチェーン加盟店の進出も含め、流れは留まっていな



難波 昇一社長

いと感じてはいる。但し、自店競合などのケースが顕在化している面も否めない状況」とし、同社業績面では安定的な推移にあるものとした。

ナンバは店舗冷設で、身を起し設計・施工・アフターメンテナンスなどをグループ総量でカバーすることで一時代を築いてきたが、近年はさらに深耕させ、フロンガス漏えいの新たな検知システムとして注目される「Freonkeeper」（以下「フロンキーパー」）などを新たな更新需要開拓のメニエーに加え、ことでメーカーとしての位置付けにも重きを置くようになった。

これらは難波昇一社長自身が新潟県冷凍空調設備協会・理事長ならびに協会組織内に設立した一般社団法人新潟県フロン回収事業協会・会長という重責を担う意味でも、

率先垂範で特にフロンに対する業界の取扱い地位の確立を目指すものでもある。

現実、同社施工の物件に対しては積極的に採用を呼び掛け、実効を上げている。加えて、業界に先駆け同社が2002年（平成14年）より取り組んできた自社施工物件での空調機ならびに冷凍機における圧縮機（コンプレッサ）の故障と冷媒のガス漏れについて設置から10年間無料で点検・保証するという「10年保証」の原点もまた、壊さない、漏らさないをキャッチフレーズに社員全員がISOで提唱する品質保証の最大テーマを具現化する形として生まれたもので、「お客様の立場で考える」ことが大きな判断基準となっている。

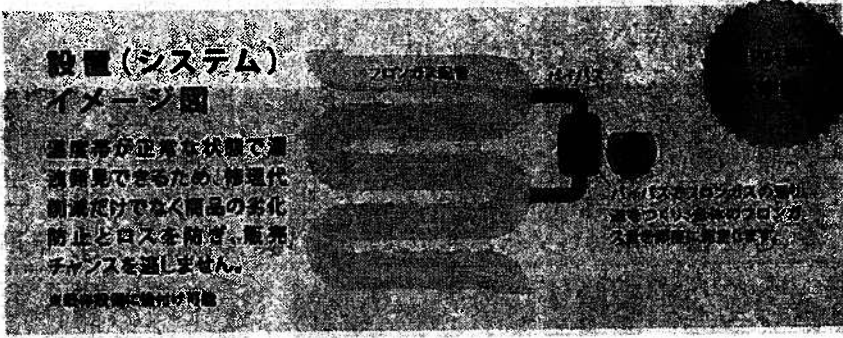
ナンバが開発したフロンキーパーは「フロンの見える化」に取り組んだ

企業だけが、ダメージの最小化の策を知っていると言いつつ、フロン漏洩に伴う発見の遅れが、ユーザーの経営資源にダメージを与えるという問題提起をした上で、温暖化係数がCO₂の2000倍以上とされる現行冷媒の漏洩は今後使用者責任も問われることとなる。

フロンキーパーは従来の大量フロン漏えいにより機器の温度異常が出るまで気づかない。また漏えい量の判定がしづらかったといった問題を解決するもので、従来は熟練作業者（技術者）のヤマカンに頼るところが大きかったものを機械化して、判断基準をより明確に、また簡素化するもので、正常運転中の微量なフロン漏れと量を確実に確認することができるとしている。

同製品は、冷凍サイクルによって機器内部を流れるフロンの量が常に一定であるかを測定するものだ。例えば霜取り時における液体状態にある冷媒の液面高さを測定し、高さ変化が2ミリに達した際に警報を発する仕組みとなっている。同社は

フロンキーパー設置イメージ図



設置（システム）イメージ図

設置が正しく状態で運用されるため、修理代削減だけでなく製品の劣化防止とロスを防ぎ、販売チャンスを通しません。

なれば」と難波昇一社長は言う。具体的には、同社が仕組みと設置方法などを指導した上で、その取扱いを引き継いでいくものとしている。

一方、既存の冷凍機に取り付けるだけで従来比の20〜40割の電気代削減や霜付きの解消。また庫内温度の安定化で食材の品質を実現するといった冷凍・冷蔵システム用「KE2省エネコントローラ」についても、フロンキーパー同様の全国展開を検討している。

このKE2は蒸発器のファンとヒーターの運転をコントローラする制御装置で自己学習能力を持ち、精度の高い最適な運転状況を作り上げることで、無駄な動きを排除。パージョンによってインターネット回線を通じて、運転状況をクラウドで確認できるタイプもある。

難波昇一社長は「来年度の改正フロン新法施行により、益々我々の業界の成すべき責務は重要視されてくる。但し、一方では法規制解釈において、ハードルが下がり事業者が増すことも懸念され、いかに有資格者としての本領を発揮できるかが、今後の業界の優劣をも左右する重要なタスキとなるだろう」とし、一層の研鑽を重ねていくものとした。

これまでも東京ビックサイトで開催された「スーパーマーケットトレードショー」などへ積極的に参加し同製品の理解を図ってきた。

今後は全国に広がる設備業者へ向けて、その取扱いを拡大させていく構えで「差別化に喘ぐ設備業者の活性への呼び水と